

第30回豊田市民総合文化祭 イマージョ de とよた とよた音楽祭

第4回愛環音楽祭

カルメン



第1部 「三日月に架かるヤコブの梯子」
「吹奏楽のためのラメント」
「第六の幸福をもたらす宿 ~映画音楽による組曲から」
指揮 太田智宏
演奏 豊田楽友協会吹奏楽団

第2部 オペラ序曲集
「魔笛」「魔弾の射手」「天国と地獄」
指揮 加藤完二
演奏 愛環音楽連盟オーケストラ

第3部 オペラ「カルメン」より
指揮 佐藤寿一
演奏 愛環音楽連盟オーケストラ
合唱 愛環音楽連盟合唱団
豊田市少年少女合唱団 (特別参加)

とき 平成14年9月29日(日)

午後2時 開演

ところ 豊田市民文化会館大ホール

ごあいさつ



愛環音楽連盟会長
天野克之

本日は「第4回愛環音楽祭・カルメン」にお出かけくださりまして、まことにありがとうございます。

これまで、愛環音楽連盟では、愛知県芸術劇場大ホールでの2回の「千人の第九」と3回の「愛環音楽祭」を開催してまいりました。

それぞれの市が持ち回りで主幹都市として開催した「音楽祭」は、どの地区も特色を生かしたプログラムで、おかげさまで大変な好評を頂くことができました。

今回、豊田市が主管都市となり、財団法人豊田市文化振興財団との共催で開催するにあたり、吹奏楽、オーケストラ、コンサート形式によるオペラの、三部構成によるプログラムを組みました。それぞれのステージをお楽しみいただければ幸いです。

特に「カルメン」は、今年から来年にかけて県下の各市で開催される予定であると伺っており、一種の「カルメン現象」の様子ですが、愛環の4市のオーケストラと合唱団が、中央でご活躍の指揮者、ソリストをお迎えしての本日の「カルメン」も、皆さまのご期待を裏切らないものになることと信じております。

地元から特別出演の、豊田市少年少女合唱団の元気な歌声も、お楽しみください。

愛環音楽連盟に加盟している各音楽団体が、それぞれ個性を持ち、独自の活動しながら、毎年1回こうして集まって「音楽祭」を開催できますのは、音楽の魅力が大きな力となっております。音楽を通して交流でき、人の和が広がり、地域の音楽文化の向上に貢献することが、私たちの願いです。

この演奏会を開催するにあたり、各方面からの方々から多大なご支援をいただきました。心から御礼申し上げますとともに、今後も引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

それでは、音楽祭をお楽しみください。



(財)豊田市文化振興財団
理事長 澁谷 朗

猛暑の続いた夏も終わり、「文化の秋」と言われますように豊田市では本格的に総合文化祭が始まる季節になりました。本日は愛環音楽連盟及び私ども財団法人豊田市文化振興財団共催事業「第4回愛環音楽祭 カルメン」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

ご存じのように「愛環音楽連盟」は、愛知環状鉄道沿線の岡崎、豊田、瀬戸、春日井4市で活躍をされているアマチュアの音楽団体の皆様が、その技術の向上と沿線地域の音楽文化の向上、また音楽を通じた交流を広げることを目標に、平成9年2月に設立されました。以来、名古屋市をはじめ各地で活動を続けております。また「愛環音楽祭」も今回で4回目を数え、私ども豊田市では初の公演となります。今回の公演は2005年に沿線の瀬戸市、豊田市で開催される「愛・地球博」のパートナーシップ事業として位置づけもなされており、愛環鉄道沿線4市の音楽文化の振興と交流を図る、「愛」と「環」の事業でもあります。

今回の演奏会は吹奏楽からオーケストラ、特に第3部は子どもから大人まで、300名を超える出演者で、オペラ「カルメン」をコンサート形式で披露させていただきます。この日のために厳しい練習を積み重ねられた皆さんの「愛」と、その奏でるすばらしいハーモニーの「環」をご鑑賞いただきたいと思います。



愛知県知事
神田 真秋

「第4回愛環音楽祭『カルメン』」が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

愛知環状鉄道で結ばれた岡崎、豊田、瀬戸、春日井の4都市で活動されている音楽団体の皆様が設立されました愛環音楽連盟が活発に音楽活動を展開され、着実に発展を続けておられますことは、誠に御同慶にたえないところです。

心豊かな生活が求められる今日、私たちの心にゆとりと潤いを与えてくれる音楽への関心は、一層高まっています。

こうした中で、カルメンをはじめ魅力あるプログラムによります演奏会は、本県音楽文化の向上に大いに寄与するものであり、また、私たちの心にゆとりと潤いを与えてくれる貴重な機会であると存じます。

愛知県におきましても、心豊かな暮らしを実現するため、2005年に開催されます国際博覧会「愛・地球博」が、人や文化の地球規模での交流の場となることをめざし、総力をあげ、取り組んでいるところであり、今回の音楽祭は、国際博覧会協会とのパートナーシップ事業として開催されると伺っております。

御出演の皆様には、今後とも音楽を通じて本県の文化振興にお力添えをいただきますとともに、国際博覧会の成功にも一層の御支援をお願い申し上げます。

最後に、本音楽祭の御成功と愛環音楽連盟のますますの御発展をお祈り申し上げます。お祝いのことばといたします。



豊田市長
鈴木 公平

ここに愛環音楽連盟の皆様により「第4回 愛環音楽祭 カルメン」が盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

貴連盟は岡崎市、瀬戸市、春日井市、豊田市と、愛知環状鉄道で結ばれた4つの都市で活躍されている音楽団体の皆様が続けられ、1997年の春に設立されました。その後着実に発展を続けられ、イベントとしての愛環音楽祭も今回で4回を迎えられました。音楽を通じて沿線4市の交流が深まることは誠に喜ばしく、関係各位のご尽力に対し深く敬意を表する次第であります。

豊田市は「活力ある産業・豊かな文化・世界に広がる交流のまち」をめざしてまちづくりを進めております。また、瀬戸市、豊田市は2005年に開催される「愛・地球博」の会場でもあり、世界から注目されるエリアでもあります。こうした状況の中で、地域の文化、とりわけ音楽を通じた文化交流の先駆であるこの音楽祭は、心の和を広げ、地域が一体となるためのすばらしい機会でもあります。今後もこうした地域文化の交流が、貴連盟を中心としますますます広がることを期待してやみません。

最後に、愛環音楽連盟および沿線4市のますますの発展を願い、お祝いのことばとさせていただきます。



豊田市教育委員会
教育長 吉田允昭

－生涯学習・市民文化振興のモデルとして－

本日ここに、愛環音楽連盟及び財団法人豊田市文化振興財団主催の「第4回愛環音楽祭」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

音楽は、国境や地域を越え、人々の心を結びつける掛け橋として、大きな力を持っております。愛環音楽祭も愛知環状鉄道沿線の岡崎、瀬戸、春日井、豊田の4都市を結びつける掛け橋として開催されており、高い演奏レベルに、交流というエッセンスが加わったすばらしい演奏会であると同っております。

市民一人ひとりが、生涯にわたって追求できる文化を持つこと。その文化を発表し、生かせる場があること。その発表をとおして交流が生まれること。こうした流れは、生涯学習時代に不可欠なものであると捉え、現在、教育委員会で策定中の教育行政計画の中でも生涯学習環境整備や市民文化の振興は大きな柱となっております。愛環音楽祭は本市が目指す生涯学習及び市民文化振興の理想を体現したモデル事業といえ、大きな期待と関心を寄せている次第であります。

終わりに、この演奏会のために日夜練習に励んでおられます出演者の皆様に心より敬意を表しますとともに、愛環音楽祭が今後ますますご発展することを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



愛環音楽連盟理事長
都築正道

－愛環音楽連盟のネジの回転－

愛環音楽祭が今回で第4回を迎えるに当たり、特別な感慨を覚えます。音楽祭も、4年前の瀬戸に始まり、春日井・岡崎を経て、豊田まで走り、これで愛知環状鉄道の4都市を回ったこととなります。4都市それぞれの音楽祭は、それぞれに素晴らしいものでした。この間に、愛知県芸術劇場大ホールで「愛環千人の第九」を2回公演しました。それはまるで、ネジの回転のように、上から共時的に見ると同じところをぐるぐる回っているようでありながら、横から通時的に見ると、確実に市民文化の核心へと向かう巨大な都市文化運動でありました。これこそ、愛環音楽連盟の理念であります。

1998年と1999年の瀬戸では柴田恒造会長が、2000年の春日井では若月剛一会長が、2001年の岡崎では伊藤眞一郎会長が、それぞれの音楽祭のリーダーとなって多彩な事業を精力的に展開してきました。

そして、本日の豊田公演です。実行面では天野克之会長をはじめとする多くの役員の皆さんが、音楽面では豊田楽友協会のオーケストラと吹奏楽団に豊田市民合唱団が中心となり、さらに、豊田市と豊田市教育委員会と財団法人豊田市文化振興財団にもご共催いただきました。これまでにない錚々たる陣営で第4回愛環音楽祭を迎えることになりました。

本日おいで下さいましたみなさま、いつもながらご協賛とご賛助をいただいたみなさま、ご共演下さった指揮の佐藤寿一氏と加藤完二氏と吉川朗氏の各先生をはじめとするソリストとナレーターと特別出演の豊田市少年少女合唱団のみなさまそれぞれに心から感謝申し上げます。

心躍らせながら開幕を待ついま、日夜努力を共にした多くの愛環音楽連盟の仲間たちの友情をにわかに思い出しています。

三日月に架かるヤコブの梯子

- Jacob's Ladder to a Crescent -

真島 俊夫 作曲 (Toshio Mashima)

この作品は、関西学院大学応援団総部吹奏楽部の創立40周年を記念して作曲の委嘱を受け、1993（平成6）年の初夏に完成した作品である。この作品について、作曲者は次のように述べている。

「曲想は、同大学のシンボル（校章）である三日月（Crescent）を題材として構成したもので、旧約聖書に出てくる《ヤコブのはしご》（ヤコブが夢に見た、天まで届くはしごで、天使たちがそれを昇降しているのが見られたという）を遙か彼方に美しく青光る三日月の端に引っかけて、その高さに到達したという憧憬を描いたものです。（後略）」

（記念コンサートプログラムより）

音楽としては、吹奏楽でよく見られる「急緩急」というスタイルをとっている。華やかで勇壮なファンファーレの後、ホルンが勇ましくソロを吹く。その後トランペットが主題を吹き、木管楽器は忙しく立ち回る。中間部分では、ゆったりとしたテンポでの早い場面転換が魅力。再びホルンのソロを経て、主題へ戻り、華やかなまま終結する。打楽器のパートも多く、効果的に使われている。

作曲者の真島俊夫は和声法と作・編曲を故・兼田敏氏に、ジャズ理論を故・内堀誠氏に師事。現在、作編曲活動と同時に演奏活動や東京コンセルヴァトアール尚美とヤマハ音楽院の講師を務める。吹奏楽のための代表作品には1985年度全日本吹奏楽コンクール課題曲となった『波の見える風景』、同1991年度課題曲『コーラル・ブルー』、近作としては同1997年度課題曲『五月の風』などがある。

吹奏楽のためのラメント

- LAMENT for Wind Orchestra -

高 昌帥 作曲 (Chang Su KOH)

この曲は平成14年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲として作曲された。

ラメントとは「嘆き」「嘆き歌」という意味の音楽用語であり、テンポの遅い葬送行進曲風の曲である。この曲では3つの主題が順番に登場する。

1つ目は冒頭のホルン、ユーフォoniumで演奏されるファンファーレ風の主題、2つ目はトランペットとトロンボーンによるもの、3つ目はクラリネットとサクソフォンによって演奏される。これらの主題が変形をしたり断片的に登場したりしながら曲が進み、最後には同時に登場して強烈に曲を閉じる。清濁の変化に富んだ響きが特徴である。

作曲者の高昌帥（こう・ちゃんす）は、大阪音楽大学作曲科卒業後、パーセル音楽アカデミー留学。作曲を田中邦彦、R. ケルターボンの各氏に師事。管弦楽、室内楽に数々の作品を残している。

『第六の幸福をもたらす宿』～映画音楽による組曲 から

第三楽章 ハッピー・エンディング

Malcom Arnold 作曲

この曲のメロディー、誰でも一度は聞いたことはあるのではないのでしょうか。某氷菓メーカーのCMにも採用されていました。

映画「第六の幸福をもたらす宿」は1958年に公開されて大ヒットした映画です。

小間使いをしていた英国人少女が、中国の地でキリスト教の伝道師になるという話。

アラン・バージェスの小説「小さな婦人」を原作とするこの映画は実在の人物グラディス・エイルワードを主人公としています。戦火が近づく中、自分が世話をする子供達を彼女は山を越えて避難させるのですが、それがつまりはストーリーの山場の場面です。

今回は組曲となっているこの中から第三楽章を演奏します。第三楽章は2部分から構成されており、前半はメインテーマが繰り返され、後半はピッコロから始まるメロディーに他の楽器がどんどん加わって反復が11回目に達すると、主題が対位的に組み合わせられた後、メインテーマの回帰によってフィナーレを迎えます。



加藤 完二【指揮】
Kanji Katoh

1981年大阪音楽大学器楽専攻ヴァイオリン科卒業。在学中に大学の恩師辻井清幸氏のすすめで指揮者を志す。卒業後本格的に松尾昌美氏に師事。その後関西二期会や関西歌劇団で朝比泰隆、小泉和裕、手塚幸紀氏らの副指揮者として研鑽を積む。

1991年に結成された全国でも珍しい、伊丹アイフォニックホール専属のプロ、アマ混合のオーケストラ、伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任。

1992年ルーマニアで行われた「第二回ディヌ・ニコレスク国際指揮者コンクール」において審査員特別賞を受賞。1998年にはルーマニア国王トゥルグ・ムレシュ管弦楽団の冬の音楽祭に招聘されオペラ「マスカーニ：カヴァレリア・ルスティカーナ」等を指揮、好評を得る。この年より、[FMいたみ]において「加藤完二のお気楽クラシック」（月～金12:50～13:00放送）のパーソナリティーとして新しい分野にも挑戦中。

現在 伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団音楽監督 大阪音楽大学非常勤講師

オペラの序曲について

それでは、「オペラ三大序曲」をお聴き下さい。オペラの序曲を、古くは、「シンフォニア」といいました。そうです、「シンフォニー」（交響曲）とは、オペラの幕が開く前にオーケストラだけで演奏される器楽曲のことを言ったのです。そして、シンフォニアには、もともと、「音（ホン）を合わせる（シン）」と言う意味がありました。そうです、「チューニング」（調弦・調音のためでもあったのです。オペラが始まる前に、オーケストラのメンバーが集まって音合わせ）をいたします。そのときには、もうおなじみのお客たちがやってきて、オーケストラに「下手くそ！」「ちゃんとやれ！」などとご機嫌なヤジを飛ばします。オーケストラは、そんな常連さんのために、チューニングの延長で、簡単な和音の音楽などをサービスで聴かせるようになりました。それがだんだんと定番となり、ついには序曲になり、シンフォニーとなったのです。ですから、どの歌劇の序曲も、「ユニゾン」（みんなが同じ音を弾く）や「音階」や「和音」と言った「音合わせ」的なところから始まります。本日の三つの序曲も、その例外ではありません。（都築正道）

歌劇《魔笛》序曲

W.A.モーツァルト (1756-1791) 作曲

モーツァルトは死ぬ年の1791年の9月に最後の大作《魔笛》を書き上げました。この歌劇には、モーツァルトが後生の私たちへ伝えたいメッセージが「謎」として隠されています。時はまさに、革命の嵐が吹き荒れる疾風怒濤の時代でした。悩める大衆に対して、革命も、自由・平等・博愛も、秘密結社フリーメイソンも、フェミニズムも、啓蒙思想も、すべてをあからさまに語ることは出来ません。そのとき、モーツァルトは、歌劇《魔笛》にこのすべてを託したのです。序曲は、謎の目録になっています。調性は「#」三つのホ長調です。「3」は、「自由・平等・博愛」であり、「フリーメイソンの象徴である三角形：自然と理性と叡智・確固と寛容と寡黙・学問と労働と芸術・高潔と純粋と誠実」であり、ファンファーレもまた、3回なります。静かで緩やかな序奏は、「眠り」であり、主部の速く明るい主題は、「目覚め」です。すなわち、「啓蒙思想」を表わします。「短調」は「混乱と迫害と闇と病気と貧乏」を、「長調」は、「秩序と解放と光と健康と豊かさ」を表わします。私たちが、この《魔笛》序曲を演奏し聴くとき、あだやおろそかであってはなりません。

歌劇《魔弾の射手》序曲

カール・マリア・フォン・ウェーバー (1786-1826) 作曲

ドイツロマン派の代表的なオペラ《魔弾の射手》(1821)の序曲は、あらゆる歌劇の中でも最高に素晴らしいものの一つです。ゆっくりした「序奏」で始まります。金管のホルンがおなじみの「秋の夜半の」(森の動機)を堂々と演奏します。狩人カスパールが魔弾を作るために悪魔ザミエルを呼び出す歌【悪魔ザビエルの動機】が近づきます。そして、正しい狩人マックスのアリア「森を抜けて」の【絶望の動機】と狼谷での「嵐の音楽」になり、穏やかな音のクラリネットがそれを受けてマックスのアリアの主題を吹きます。マックスの恋人アガーテのアリア「あの人を知るまでは」がそれにつづき、アガーテの愛が、一時は悪魔の手に落ちたマックスを救うことを暗示して、すべてが華やかなファンファーレのうちに終わります。

歌劇《天国と地獄》序曲

ジャック・オッフエンバッハ (1819-1880) 作曲

パリのボードヴィルのカンカン踊りでおなじみの、いえ、日本では浅草オペラや運動会でおなじみの、いえ、エノケンのチャッキリ金太の追いかけっこでおなじみの、あの「チャカチャカ・チャンチャン！」がこれです。パリ音楽院を優秀な成績で卒業したオッフエンバッハでしたが、「面白くなければ音楽じゃない」とばかりに、自作のオペレッタのためにパリに「ブッフア・パリジャン座」を作り、荒唐無稽で、陽気で、踊りもあり、曲芸もありのハチャメチャな作品を次々に上演しつづけました。その代表作がこの《天国と地獄》(原題：地獄のオルフェオ：1858)です。むろん、グルックの真面目なオペラ《オルフェオとユディーチェ》の抱腹絶倒のパロディになっています。ヴァイオリン・ソロは、コンマスの鈴木理達(すずき・まさと・岡崎)が務めます。



佐藤寿一【指揮】
Juichi Sato

1960年仙台市生まれ。埼玉大学教養学部卒業。初め哲学コースで音楽美学を専攻、後、指揮に転向。指揮を小松一彦、高階正光、前田幸市郎の各氏に師事。これまで、山形交響楽団、ニューフィル千葉、仙台フィルなどを指揮するほか、東京室内歌劇場その他オペラの副指揮、指揮、また文化庁主催・歌座「うたよみざる」公演の指揮兼打楽器を務めた。1992年、ハンガリーの国際バルトークフェスティバルで、サヴァリア交響楽団を指揮。2002年4月、日韓国民交流年記念事業として、韓国ソウルのカンナム交響楽団を指揮し高い評価を得た。2001-02年、モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」（山形県生涯学習文化財団制作）では、指揮とともに台本、演出も担当し好評を博した。

2001年からは浦和フィル、彩の国シューベルト・シリーズ（交響曲全曲演奏プロジェクト／埼玉県芸術文化振興財団＝諸井誠芸術総監督＝制作）が始まり、大きな期待が寄せられている。

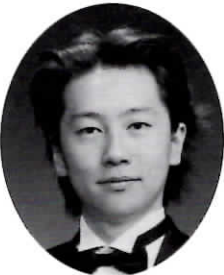
現在、山形交響楽団指揮者。

【カルメン】
牧野真由美 (メゾ・ソプラノ)
Mayumi Makino



東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程修了。オペラ「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「リゴレット」「カルメン」などに出演。
また、小澤征爾氏指揮によるサイトウキネンフェスティバル松本でのオペラには、東京オペラシンガーズのメンバーとして1994年以降全作品に出演。1999年第30回イタリア声楽コンクール金賞受賞など。

【ドン・ホセ】
平尾憲嗣 (テノール)
Noritugu Hirao



国立音楽大学声楽科卒業。同大学院在学中。牧野正人氏に師事。卒業演奏会、読売新人演奏会、レインボーコンサートに出演。ヴェルディ協会やロッシェニ協会主催によるコンサートやオペラの他、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド、「秘密の結婚」のパオリーノ、「ラ・ボエーム」のロドルフォ、「ポッペアの戴冠」のネローネ役で出演。
現在藤原歌劇団準団員。

【ナレーター】
古木淑恵
Yoshie Huruki



1983年より1987年までCBCに在籍。
「ニュースワイド」を始め、「サンデードラゴンズ」「名古屋発・新そこが知りたい」などで活躍。
現在フリーとして、講演、司会、イベントなどで活躍中。

【ミカエラ】
赤星啓子 (ソプラノ)
Keiko Akahoshi



武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院修了。「リゴレット」「コシ・ファン・トゥッテ」「魔笛」「ヘンゼルとグレーテル」などに出演し、幅広い役柄を演じる。「八長調ミサ」「第九」などコンサートにも出演。
二期会会員。東京室内歌劇場会員。

【エスカミリョ】
立花敏弘 (バリトン)
Toshihiro Tachibana



東京都出身。国立音楽大学声楽学科卒業。'91年から'93年までイタリア・ミラノに留学。
帰国後、藤原歌劇団のオペラ「カルメン」「椿姫」「マクベス」「リゴレット」「ナブッコ」などに出演。コンサートにおいても「第九」などで活躍。
藤原歌劇団団員。

【衣装】
下斗米雪子
Yukiko Shimotomai

日本を代表するオペラ衣装製作者。常に情熱を持って東奔西走。地方オペラになくてはならない存在となっている。エフ・ジー・シー「アトリエ・ユキ」の主宰者。

豊田市少年少女合唱団 【特別出演】
Toyota City Boys And Girls Choir

「明るく、楽しく、心と心のふれあう市民文化活動のシンボル」となり、歌唱活動を通じて情操を養い、円滑な人格を涵養することを目的に、昭和52年に豊田市立の合唱団として誕生しました。毎年開く定期演奏会のほか、各種演奏会、地域イベントなどへの出演、国内外のさまざまな合唱団と交流演奏会を行ってきました。発団20年を迎えた平成9年度には、海外演奏会をイギリスのダービーシャーで行い、大きな成果を上げました。

こうした積極的な活動が評価され、平成13年度愛知県芸術文化選奨ほか、各賞を受賞しています。



歌劇「カルメン」の幕開け

☆歌劇「カルメン」メモ

「カルメン」4幕のオペラ・コミック（歌の入るお芝居）
台本はアンリ・メイヤック（1831～97）、リュドヴィック・アレヴィ（1834～1908）という二人の人気台本作家。他にオッフェンバックのオペレッタ「美わしのエレヌ」 「青ひげ」などの作品がある。

原作はプロスペール・メリメ（1803～70）の1845年発表した小説。

音楽はジョルジュ・ビゼー（1838～75）

初演は1875年3月3日 パリのオペラ・コミック座

☆原作は異常な情熱を描いた傑作小説

歌劇「カルメン」の原作は、フランスの作家プロスペール・メリメの小説「カルメン」です。メリメはスペインに2回旅行し、その時に「嫉妬から情婦を刺し殺した山賊の話」を聞いて小説にしました。小説「カルメン」は「純情な青年が情熱の女カルメンに翻弄され、彼女の情夫を殺し、ついにはカルメンをも殺してしまった悲しい物語」で、自首して牢に繋がれている山賊ホセの回想の形をとっています。メリメ自身がジョルジュ・サンドと恋愛したり、不倫騒動で刃傷ざたを起こしたりした事件人だけに、情熱に人生を賭けた人間を生き生きと描いています。その人間像にビゼーは感銘を受け、作曲を決心したのです。

☆ビゼーは歌劇「カルメン」に賭けたが！

作曲者ジョルジュ・ビゼーはパリに生まれ9歳でパリ音楽院に入学した天才でした。若い頃は作曲家として認められていましたが、歌劇での成功を目指して貧乏生活をつづけて「真珠とり」「パースの娘」などの歌劇と劇音楽「アルルの女」を発表しました。そして「カルメン」は1875年3月3日にパリのオペラ・コミック座で初演されますが、大失敗してしまいます。ジプシー女や山賊や脱走兵が主人公で殺人まで起こるこの歌劇の迫真性に当時の観客、批評家、パトロンたちはびっくりしたに違いありません。

前から健康がすぐれなかったビゼーは自分の生涯を賭けて初演した「カルメン」の大失敗にがっかりしたのか、初演後3ヶ月した6月3日にわずか37歳の若さで急死してしまいます。しかしその年の10月にウィーンで上演され大成功を収めます。ビゼーの天才的な独創性が舞台に劇的眞実を呼び起こしたことが、遂に認められたのです。

所は、スペインの一番南、アンダルシア地方の古い都セヴィリアです。

時は1820年頃といいますが、もちろん、まだ汽車も、汽船も、電信もありません。

古めかしい軍隊が警察の役目まで兼ねていて、その目をかすめて密輸入業者や盗賊の横行する、昔のスペインです。いつも悪事をはたらくジプシーの群れに、カルメンという美しい浮気な女がいて、田舎出の純情な若い兵隊ドン・ホセを誘惑し、闘牛士エスカミーリョとの三角関係から、ついには身を滅ぼす物語。オペラ「カルメン」の幕がこれから開きます。

☆カルメンの登場人物

カルメン（メゾ・ソプラノ）

自由奔放に生きるジプシー女。浅黒い顔、艶やかな黒髪、野性的な、不思議な魅力を持った情熱的な美女。生まれ育ちのことからタバコ工場で喧嘩して相手を傷つけ、傷害罪で捕らえられる。

ドン・ホセ（テノール）

ナヴァラ地方の旧家の生まれ。村の若者と喧嘩をして相手を傷つけ、そのため故郷を出て騎兵隊に入隊し出世して伍長になり、セビーリャに配属されている。一本気がかつとなる性格の美男子。母は未亡人で息子を追ってセビーリャから少し離れた村に住みつき、孤児のミカエラを引き取って一緒に住んでいる。ホセはいつかはミカエラと結婚して母と一緒に暮らしたいと思っていたのだが。

ミカエラ（ソプラノ）

原作にはなく、オペラ化にあたって創られた役で、ホセの婚約者。青いスカートをはいたプロンドのナヴァラ娘。カルメンとは対照的な、良識的で清らかで貞淑な女性。

エスカミーリョ（バス・バリトン）

セビーリャの花形闘牛士。陽気で勇敢、冷静、貴族的な物腰をしているが、高慢で自己中心的な男性。女性はずべて自分に惚れると思っている。が、一方で、惚れた女カルメンを危険な山の中まで追いかけて行く情熱も持っている。

スニーガ（バス）

竜騎兵隊長、中尉。ホセの上官。カルメンに惚れている。ホセと刃傷沙汰になる。

フラスキータ（ソプラノ）メルセデス（ソプラノ）

カルメンの仲間のジプシー女。

みなさま、私たちの「愛環音楽祭☆カルメン」に、お忙しい中、よくお出で下さいました。今日は、カルメンとドン・ホセの悲しい恋物語を聴いて下さいね。

前奏曲

さあ、みなさんご存じのメロディが一杯つまった胸躍る心ウキウキの前奏曲です。次から次へと「闘牛士の歌」など、おなじみのメロディーが出てきます。

第一幕 セヴィリアの町のタバコ工場前の広場

左に衛兵詰所

ここで衛兵のホセを訪ねて婚約者のミカエラがやってきますが、ホセがいないので帰ってしまいます。入れ違いに子供たちと一緒に、ホセのいる衛兵隊が勤務の交代にやって来ます。

第3番 子供たちの合唱「兵隊さんと一緒に」

やがて、昼休みの鐘がなりタバコ工場の女工たちが、町の男たちが待つ広場に出てきます。みんながお目当てのジプシー美女カルメンは最後にさっそうと登場します。

第4番 タバコ女工たちの合唱「立ちのぼる煙」

第5番 カルメンのアリア「ハバネラ」

(恋は気ままものよ、野原の小鳥)

カルメンは男たちを見回し純情そうで美男子のホセに目をつけ、そっぽを向いているホセに赤い花を投げ誘惑します。昼休みが終わり、女工たちは工場に入っていきます。

そこへミカエラが戻ってきて、ホセの母親から預かってきた手紙と小遣いをホセに渡します。手紙には「私も年を取ったからふるさとへ帰ってミカエラと結婚しておくれ。」と書いてありました。ホセは「そうしますよ。母さん」と誓うのですが。

突然、女工たちが工場から走り出していきます。カルメンが喧嘩をして相手を傷つけてしまったのです。傷害罪で捕まってしまったカルメンですが、ホセを誘惑して逃げてしまいます。ホセは逃がした罪で捕まり営倉に入れられてしまいます。ホセの転落の始まりです。

第二幕 セヴィリアの町はずれの城壁近くの

リーリャス・パステアの酒場

カルメンが働いているこの酒場にはいかがわしい連中が集まっています。そこへスペイン一の闘牛士エスカミーリョがやってきます。勇壮な歌が華やかに響きますよ。

第14番 「闘牛士の歌」

歌い終わってみんなの喝采をあげたエスカミーリョは妖艶なカルメンに目を付けます。けれども、ホセを待っているカルメンは冷たくあしらいます。闘牛士たちが帰ったあと、牢に入っていたホセが、釈放されてカルメンを訪ねてきます。カルメンは踊りでホセをもてなしますが、ホセは点呼ラッパを聞いて帰ろうとします。カルメンは「こんなにサービスしているのに、帰るっていうのね。私を愛していないのね」と怒ってしまいます。ホセは「ひどいぞカルメン。お前をひとときも忘れたことはない。お前の投げたこの花を営倉の中でも手放さなかったのだよ」と切々と歌うのです。

第17番 ホセのアリア「花の歌」

ホセの気持ちにホロリときたカルメンですが、その時カルメンを口説きに上官のスニガが戻ってきたのです。上官にいちゃもんをつけられたホセは決闘になりスニガを傷つけてしまいます。もう、兵隊には戻れません。ホセは脱走してカルメンたち密輸業者の仲間になってしまうのです。可哀相にホセはカルメンに誘惑されたために、悪の道に落ちて行くのですね。

間奏曲

第三幕 山の中の密輸業者の休憩地

前の幕から2カ月後

純情なホセは、カルメンのために兵隊から離れてこの仲間に入ったのですが、何ヶ月たってもこの仲間にはなじみません。ただカルメンの愛にすがっているばかりです。

密輸業者の仲間になったホセを連れ帰ろうとミカエラがこごわやってきます。

第22番 ミカエラのアリア「何が何でも恐くはないわ」

カルメンは自分のために兵隊から脱走したホセがもういやになっています。訪ねてきたエスカミーリョとホセはカルメンをめぐる決闘になりますが、危ないエスカミーリョを救ったのはカルメンでした。エスカミーリョはカルメンはじめみんなを闘牛に誘って帰ります。ホセはカルメンと喧嘩になりますが、その時、ミカエラが見つかってしまいます。ホセは母親が危篤だと知らされ、カルメンに気を残しながら、ミカエラと共に母の元へ帰るのです。ホセはもうカルメンが自分を愛していないことを知っているのですが、今さら別れられないのですね。

第四幕 セヴィリアの闘牛場の前

今日はエスカミーリョが出場する日です。カルメンも着飾ってエスカミーリョと一緒にやってきます。闘牛士のたちの登場に大勢の観衆が歓声をあげ、大喜びです。

第26番 行進と合唱

みんなが闘牛場に入っていった後、カルメンはホセと話をつけるために、一人残ります。カルメンはホセの「もう一度、一緒になってくれ」という哀願にも「もう、愛していない」とホセを振り切ってエスカミーリョのところへ行こうとします。もう、これまでと嫉妬にかられたホセはカルメンの胸に短刀を刺して殺してしまいます。場内では闘牛が華々しく終わって、人々が出てくると、カルメンは血に染まり、ホセは泣いていました。愛が憎しみに変わった、悲しい結末です。

第27番 二重唱と終曲の合唱

Group Profile

岡崎「第九」をうたう会

1983年6月、岡崎文化協会が市内の合唱団や市民に呼びかけて発足、半年間の合唱練習を経て、同年12月、指揮者に外山雄三氏、管弦楽に名古屋フィルハーモニー交響楽団を迎え第1回の第九演奏会を開催しました。それ以後、外山雄三氏指揮、名古屋フィルハーモニー交響楽団で毎年演奏会を続け、1997年からは関谷弘志氏を指揮者に迎えて開催、今年12月15日(日)の演奏会は20周年記念演奏会となります。

当会は、毎年初夏に発会式を行い、週1回の練習を重ね、12月に演奏会を開催、翌年1月の反省会をもって解散というスケジュールです。練習は、毎年基礎から始め、初心者のための特別練習なども行い、会員の約1/4を占める初心者が必ず本番の舞台に立てるよう進められます。

また、同じ指揮者で長年演奏会を開催することは年々より高いレベルの合唱を要求されることです。その要求に応えようと、合唱指揮者、ヴォイストレーナー、伴奏ピアニストに加え、ドイツ語専門指導者という豊富なスタッフのもと、常に向上心をもって練習を重ねることが「岡崎第九」を常に成長させてくれています。

会員は、幅広い年齢層、職業もまちまちですが、「明るく、楽しく、しっかりと」を会のモットーに、初心者とベテランがお互いに影響しあい、助け合って「第九」に挑んでいます。

豊田市民合唱団

昭和60年「第九を歌う市民の集い」から「豊田市民合唱団」を発足させて17年になります。

これまでに17回の定期演奏会、13回の「とよた第九」を開催するほか、「豊田合唱連盟合唱交歓会」「とよたジョイントコンサート」「美術館コンサート」にも毎年のように参加するなど、意欲的に活動しております。

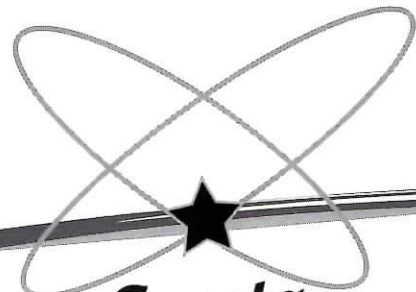
また、愛知県コンサートホールでの「第九」「復活」、明治村の「春のミュージアムコンサート」他に出演するなど、活動の場を広げてまいりました。

愛環音楽連盟の他都市の皆さんから沢山の刺激を受けながら、より多くの方に愛される「楽しく、明るい合唱団」を目指して練習を重ねております。

定期練習は、毎週金曜日夜7時から9時まで、吉川朗先生のご指導のもと、豊田音楽練習場で行っております。

ただ今、新入団員を募集中です。

連絡先：都築和子 (Tel.0565-32-7013)



Toyota

Okazaki

岡崎フィルハーモニー管弦楽団

「岡フィル」は72年の創立ですから、早いもので創立して満30年になります。発足当時は十数名でしたが、その後仲間が増えて、約60名の市民オーケストラになりました。団員構成は会社員・教員・学生・主婦などです。年2回の自主公演(定期演奏会・ポピュラーコンサート)に加え、岡崎市内を中心にして種々の催しに参加しています。定期演奏会では通常のクラシックのレパートリーを演奏しており、作曲家別ではベートーベン・チャイコフスキーとドボルザークがトップ3の演奏回数となっております。本年は岡崎シビックセンター「コロネット」のオープニングシリーズの一環で、6月9日(日)にブラームス・交響曲第4番、その他を演奏しました。岡崎にも響きの良いコンサートホールが出来て、大変嬉しく思っております。また、来年3月の岡崎市民音楽劇「異聞/十二段草子」一浄瑠璃姫の物語一の練習を既に開始しております。

オーケストラという固苦しいイメージが強いのですが、「岡フィル」の団員は何より音楽が大好きな人間の集まりで、最近ではIT革命の波に乗って、メーリングリストにより情報交換やら井戸端会議を楽しんでいます。皆さん一度ホームページにもアクセスしてみてください!!

<岡フィル ホームページ>

<http://www2s.biglobe.ne.jp/~iso3>

<連絡先>

444-0071 岡崎市稲熊町3-4-5 吉田和典

TEL : 0564-24-6905

E-Mail : gkd39486@sun-inet.or.jp

豊田楽友協会吹奏楽団

豊田楽友協会吹奏楽団(旧名/豊田市吹奏楽団)は、昭和60年6月に結成以来、年1回の定期演奏会を中心に各地域や学校への訪問演奏など、年間を通じて様々な活動を行っています。2000年度から団名を豊田市吹奏楽団から豊田楽友協会吹奏楽団へ改名しました。

団員は高校生から社会人、夫婦で入団している者など、幅広い層の音楽好きな豊田市民や近郊の仲間達が集まり、毎週土曜日の夕方に、ジャンルにとらわれず、マーチからオリジナル、クラシックアレンジまで様々な曲に挑戦しています。

昭和61年6月に第1回定期演奏会を開催し、平成13年12月には第13回定期演奏会を開催いたしました。今年12月15日に第14回定期演奏会を計画しております。皆様、お誘い合わせの上、足を運んで頂けると幸いです。

豊田楽友協会管弦楽団

「豊田の町にオーケストラを」の願いから1988年4月、以前から活動していた豊田文協アンサンブル、豊田市吹奏楽団とともに「豊田楽友協会」を結成し、同時に「豊田フィルハーモニー管弦楽団」として誕生いたしました。当楽友協会は管弦楽団と吹奏楽団がお互い独立しながらも常に連携しあい、演奏者の交流、練習場所と特殊楽器を共有する形で発展してきました。2000年4月、団名称を現在の「豊田楽友協会管弦楽団」と改名し、団員は約50名、技術的には未熟な部分が大変多い団ではありますが、「アットホームな雰囲気」と「常に前向きな姿勢」を大切にしながら練習に励んでいます。年1回の定期演奏会とファミリーコンサートを活動の中心として、バーンスタイン「シンフォニックダンス」や「ピーターと狼」、「展覧会の絵」を演奏するなど特色あるプログラムを企画し、市民の皆様にもご好評頂いています。

- ・練習日 毎週日曜日 午前9:30~12:30
- ・豊田楽友協会ホームページ
<http://www.sun-inet.or.jp/~t-gakuyu/>

春日井第九合唱団

平成5年、春日井市市制50周年を記念して、故石丸寛氏指揮による「第九演奏会」が開催されましたが、この成功を機に、春日井市民を中心に「春日井第九合唱団」を結成。以降毎年12月に開催される「春日井市民第九演奏会」に、200名の大合唱団として出演しています。本年12月1日(日)にも、第10回演奏会に出演することとなり、現在250名余の団員が演奏会の成功を目指して、練習に励んでいます。

創立以来、ベテランの指導者吉川朗先生等の熱心な指導に加えて、団長以下優れたスタッフ、経験豊かな団員の活躍が、新人を含めた多くの団員を勇気付け、毎年の「春日井市民第九演奏会」では、心のこもった質の高い演奏を生み、好評を博しています。

平成7年からは、「第九」の本番に入る前に、基礎作りのため、特別練習として3~4ヶ月、「第九」以外の合唱曲にも挑戦することとし、演奏技術・音楽表現の向上に向けて頑張っています。その意味では、愛環音楽連盟への加入が音楽の幅を広げることとなり、「愛環音楽祭」への参加は、我々にとって大きな収穫となっています。

本年6月29日(土)は、文化フォーラム春日井で、今回の愛環音楽祭と同じく「カルメン」抜粋曲を、ピアノ伴奏ではありましたが、オペラ形式で上演し、好評を博しました。

Seto

瀬戸第九合唱団

1984年に「瀬戸第九をうたう会」が創立されて18年になりました。

第1回「瀬戸第九演奏会」が名古屋フィルハーモニー・外山雄三指揮によって開催され、大成功を勝ち得て以来、「瀬戸第九」は広範な瀬戸市民の絶大な支持を獲得しています。

とりわけ、1988年の“世界の小澤”指揮による「第九」は、瀬戸の〈音楽遺産〉ともいわれ、各方面に大きな反響を呼び、瀬戸第九合唱団は一気に評価を高めました。

「第九」のみならず「愛環音楽連盟」にも積極的に参加し、その他「瀬戸合唱フェスティバル」の一員として多彩な活動をしてきました。

昨年は地元、瀬戸市民オーケストラと「第九」を共演するなど、瀬戸第九合唱団は名実ともに「第九」を友とし、「第九」と一緒に歩んでいます。

Kasugai

春日井市交響楽団

市民オケである春日井市交響楽団は、「市民が演奏し・市民が聴く、春日井市民のオーケストラ」として、また、「春日井第九のオーケストラ」として、市内の音楽愛好家を中心に、1990年(平成2)11月に創立されました。愛称『カポ』(KAPO)は英字名称「KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA」の頭文字をとったもので、イタリア語の「カポ」(capo 頭・先頭に立つ者)の思いもあります。毎年、7月の定期演奏会と12月の「春日井市民第九演奏会」を中心に、数多くのオーケストラ活動を行っています。この8月には「2002市民オケ・フェスタ in kasugai: オペラってなに?」に参加。オペラにも自信をつけてきました。団員は、会社員・公務員・教員・医師・主婦・学生・自営業者などの60名。私たちにとって、最大の喜びは、一人でも多くのみなさまに演奏会においていただき、クラシック音楽を好きになっていただくことです。このために、「名曲の名演奏」を心がけています。これからも、愛環音楽連盟の一員として、市民音楽活動をつづけて参ります。温かいご支援をお願いいたします。(団長・花村浩克)